

## 雨の強さについて

天気予報で、「1時間に30ミリの激しい雨が降るおそれがあります」や「1時間に80ミリの猛烈な雨が降るおそれがあります」といったような、雨の強さについての解説を見聞きした事はないでしょうか。

雨の強さですが、気象庁では、雨の強さを1時間あたりに降る雨の量で、「やや強い雨」「強い雨」「激しい雨」「非常に激しい雨」「猛烈な雨」の5段階で表します。「やや強い雨」は、1時間あたり10ミリ以上20ミリ未満、「強い雨」は、1時間に20ミリ以上30ミリ未満の雨です。「強い雨」が長く降り続くときは、大雨注意報や洪水注意報が発表されることがあります。また、「強い雨」が小さな川の上流で降ったときなどは、川では急な増水が起きることもあります。「激しい雨」は、1時間に30ミリ以上50ミリ未満の雨で、バケツをひっくり返したように降る雨です。道路が川のようになり、車を運転していると、ハンドルやブレーキが効かなくなる可能性があります。また、山崩れや崖崩れが起きやすくなり、道路の側溝からは雨水が溢れたりするなど、浸水害や土砂災害のおきやすい場所では避難の準備が必要です。

「激しい雨」が予想されると、多くの地域では大雨や洪水の注意報が発表され、警報が発表される地域もあります。「非常に激しい雨」は、1時間に50ミリ以上80ミリ未満の雨で、滝のようにゴーゴーと降り続く雨です。傘はまったく役に立たず、地下街や地下鉄の駅に雨水が流れ込んで浸水したり、マンホールからは水が噴出したりすることがあります。また、水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなるほか、雨水が溜まりやすい場所では、通行中の車が立ち往生し、水没することもあるなど、車の運転は大変危険です。更に、土石流など、多くの災害が発生するおそれがあります。

「非常に激しい雨」が予想される場合、ほとんどの地域で大雨や洪水の警報が発表されます。大雨警報や洪水警報は、各自治体が発令する「高齢者等避難」情報の目安となります。土砂災害の危険がある場所や浸水しやすい場所にいる人は、大雨警報や洪水警報が発表されたのを見聞きしたら、安全な場所へ避難することを考えましょう。

更に、1時間に80ミリ以上降る雨を「猛烈な雨」と言い、息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大規模な災害の発生するおそれがあり、外を歩くのも危険です。大雨警報や洪水警報が発表され「猛烈な雨」などが予想されていたら、早めの避難を心掛けましょう。

問い合わせ先 網走地方気象台  
(電話：0152-43-4349)



網走地方気象台ホームページ



気象庁ホームページ  
「今後の雨」はこちらから

